

資 料

保育所におけるソーシャル・キャピタル尺度の作成

森本寛訓^{*1} 入江慶太^{*2} 池田正人^{*3}

要 約

本研究の目的は保育所ソーシャル・キャピタル尺度を作成することであった。そのためソーシャル・キャピタルを結合型と橋渡し型に分類し、かつ各々の下位領域に信頼、互酬性の規範、ネットワークを構成して捉えた。はじめに尺度項目を新たに作成し、その後、職場のソーシャル・キャピタル尺度等の関連する尺度も含めてWeb調査を行った。調査で得られた144人分のデータを分析した結果、尺度の各下位領域において十分な信頼性と妥当性を確保することができなかった。尺度項目を加筆、修正するといった継続的な検討が求められる。

1. 緒言

1.1 本研究のねらい

保育所は乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする児童福祉施設である。0歳から小学校就学前までの乳幼児に対して、保育所保育指針(平成29年厚生労働省告示第117号)に従い養護および教育を行っている。保育所での業務は主として保育士が担うが、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(昭和23年厚生省令第63号)により対象児の年齢に合わせて保育士の配置数は決められている。なお、この配置基準は制定時から最近まで変更されることなく運用されていた。ただし、2024年度から4、5歳児では30人に対し1人の配置から25人に1人の配置に、さらに3歳児では20人に対して1人の配置から、15人に1人の配置に改正された。いずれにしても保育所では定められた配置基準のもと、対象児よりも少人数の保育士で業務を行う必要があり、保育士間の効果的な連携が不可欠といえる。

本研究では保育士の連携を促進する要因としてソーシャル・キャピタル(social capital)に着目する。その上で、保育所場面を想定したソーシャル・キャピタル項目を具体化し、保育所ソーシャル・キャピタル尺度を作成することをねらいとする。

1.2 本研究におけるソーシャル・キャピタルの枠組み

ソーシャル・キャピタルはこれまでに多くの先行研究があり、その定義も様々に提案されている¹²⁾。その中でもPutnam³⁾の『人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる「信頼」「互酬性の規範」^{†1)}「ネットワーク」といった社会組織の特徴』は広く知られる定義である。なお上記の信頼、互酬性の規範およびネットワークは、身近な対人関係から地域社会における場面を想定したものである。

ソーシャル・キャピタルはその機能や性質、特徴によって分類される。最も代表的な分類としてはNarayan⁴⁾のソーシャル・キャピタルの機能に着目した、結合型(bonding)ソーシャル・キャピタルと橋渡し型(bridging)ソーシャル・キャピタルがある。結合型は、組織内部の人と人の同質的な結びつきで内部に信頼や協力を生むものであり、強い絆や結束によって特徴づけられ、内部志向的であるため、この傾向が強すぎると閉鎖的で排他的になりがちである。一方、橋渡し型は異質なものを同士を結びつけるものであり、結合型に比べ弱く、薄い結びつきではあるが、より開放的かつ横断的であって、広い互酬性を生み、外部志向的である。

なお、Granovetter⁵⁾は社会的ネットワーク論の

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 子ども医療福祉学科

*2 新見公立大学 健康科学部 健康保育学科

*3 社会福祉法人三誓会

(連絡先) 森本寛訓 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-mail: morimoto@jc.kawasaki-m.ac.jp

観点から対人間の結びつきを「紐帯 (ties) の強度」として捉え、ともに過ごす時間量や情緒的な強度、親密さ、相互の助け合いで定義している。その上で、「強い紐帯 (strong ties)」は特定の対人間で結びつきの強い、閉鎖的なネットワークを構成するが、「弱い紐帯 (weak ties)」は強いネットワークが構成されない代わりに、様々な対人間でネットワークを構成することが容易と指摘している。したがって、強い紐帯は結合型ソーシャル・キャピタルと似た特徴を持ち、弱い紐帯は橋渡し型ソーシャル・キャピタルと類似している。結合型、橋渡し型といった分類は社会的ネットワーク論においても認められることがわかる。

また、ソーシャル・キャピタルの性質および特徴から、個人の規範、価値、態度、信念からなる認知的 (cognitive) ソーシャル・キャピタルと、規範や役割、手続き、前例といった社会の枠組からなる構造的 (structural) ソーシャル・キャピタルに分けられることもある⁶⁾。ソーシャル・キャピタルの定義を踏まえると、信頼、互酬性の規範は認知的ソーシャル・キャピタルに該当し、ネットワークは構造的ソーシャル・キャピタルに当たるといえる⁷⁾。その他にも、上下関係のある対人関係での垂直型 (vertical) ソーシャル・キャピタルや、対等な対人関係における水平型 (horizontal) ソーシャル・キャピタルといった分類も提案されている。ただし、この分類は橋渡し型ソーシャル・キャピタルの下位に想定されたり^{8,9)}、構造的ソーシャル・キャピタルの下位分類¹⁰⁾として置かれたりして、一貫した見解を得ていない。さらに結合型および橋渡し型ソーシャル・キャピタルに追加して、社会的地位が異なる階

層間での連結型 (linking) ソーシャル・キャピタルも同時に分類する場合や、構造的、認知的ソーシャル・キャピタルに加え行動的 (behavioral) ソーシャル・キャピタルも考慮して分類されることもあり、いまやソーシャル・キャピタルの分類を一概に整理することは難しいとされる¹¹⁾。

本研究ではPutnam³⁾の定義とNarayan⁴⁾の分類を基礎とする宮田¹²⁾および稲葉¹³⁾が提案するソーシャル・キャピタルの枠組みを参考にする。宮田¹²⁾は、結合型と橋渡し型のソーシャル・キャピタルの分類を前提として、各々の分類に、信頼、互酬性の規範、ネットワークの要素で構成するモデルを提案した。具体的には、結合型では『人々が閉鎖的で強い紐帯からなるネットワークを形成し、その人々の間で個別的信頼を育て、そのネットワーク内で何かをしてくれた人にお礼をするという特定の互酬性やネットワーク内だけでの一般化された互酬性の規範を作り上げる』(pp.23-24) ソーシャル・キャピタルのモデルを、さらに橋渡し型では『開放的で弱い紐帯からなるネットワークを有し一般化された互酬性に基づいて行動し一般的信頼を形成する』(p.24) ソーシャル・キャピタルのモデルを構成している。また稲葉¹³⁾は結合型、橋渡し型の分類には言及していないが、特定化信頼、特定化互酬性、閉じたネットワークで構成されるソーシャル・キャピタルと、一般的信頼、一般的互酬性、開いたネットワークで構成されるソーシャル・キャピタルを提案している。これらにおいて、前者は宮田¹²⁾の結合型の枠組みに、後者は橋渡し型の枠組みに該当すると考えられる。宮田¹²⁾と稲葉¹³⁾をもとに、この研究では図1にあるモデルでソーシャル・キャピタルを捉えることとする。

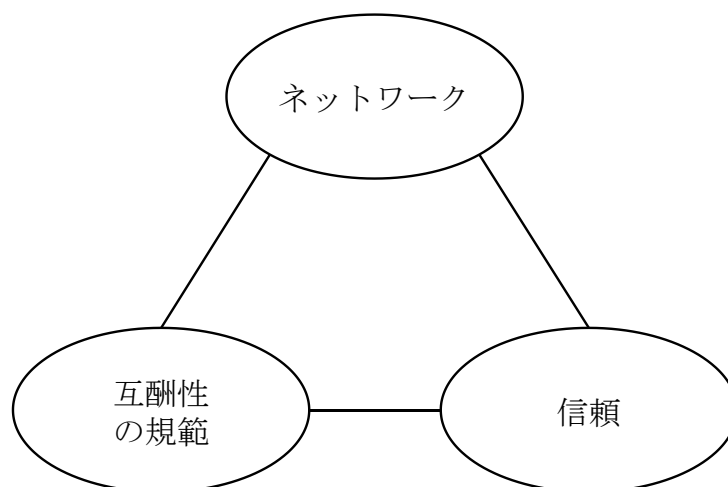


図1 保育所ソーシャル・キャピタル尺度の結合型または橋渡し型の各分類におけるモデル

本研究では保育所場面を想定したソーシャル・キャピタル尺度の作成をねらいとした。1.1で述べたように、保育所では定められた配置基準のもと対象児よりも少人数の保育士で業務を行うため、保育士間の連携を促進するソーシャル・キャピタルが不可欠である。また、保育所の運営方針を示した最新の保育所保育指針（平成29年厚生労働省告示第117号）の解説¹⁴⁾では、改定の方角性として「地域で子育て支援に携わる他の機関や団体など様々な社会資源との連携や協働を強めていくことが求められている」とある。これを達成するためには、保育所のある地域とのソーシャル・キャピタルの充実が必要といえる。本研究では図1のモデルに示した結合型と橋渡し型のソーシャル・キャピタルに焦点を当てて、保育者間の連携を促進するソーシャル・キャピタルには結合型ソーシャル・キャピタルが該当し、地域におけるソーシャル・キャピタルは橋渡し型ソーシャル・キャピタルとして捉えられると考える。

今回の研究では、図1にある各モデルの内容を具体化する項目について、保育所場面を想定して作成することを試みる。そして、このたび作成される全項目を称して「保育所ソーシャル・キャピタル尺度」とする。

1.3 保育者ソーシャル・キャピタル尺度と関連する尺度

本研究では作成する保育所ソーシャル・キャピタル尺度の妥当性を検証するために、以下の尺度でも調査を行う。

第1に、Kouvonen et al. の職場のソーシャル・キャピタル尺度¹⁵⁾を用いる。Kouvonen et al. の尺度は職場におけるソーシャル・キャピタルを測定する8項目で構成される。各項目は2種の分類に関する特徴を併せ持つ。ひとつは信頼と互酬性の規範またはネットワークの要素を反映させた認知的、構造的ソーシャル・キャピタルと、もう一つは結合型、橋渡し型、連結型ソーシャル・キャピタルである。新たに作成する保育所ソーシャル・キャピタル尺度では連結型のソーシャル・キャピタルについては取り上げない。一方、保育所ソーシャル・キャピタル尺度は、橋渡し型ソーシャル・キャピタルとして信頼および互酬性の測定項目があるが、職場のソーシャル・キャピタル尺度には含まれない。両者には差異があるものの、保育所ソーシャル・キャピタル尺度は、保育という職業場面のソーシャル・キャピタルを測定する尺度でもある。したがって、保育所ソーシャル・キャピタル尺度の併存的妥当性の検証のために、職場のソーシャル・キャピタル尺度を用いて

調査を行う。本研究では両者に正の相関関係があると予測し、調査で得られたデータを分析する。

第2に、芳賀らが作成した大学生活における主観的ソーシャル・キャピタル尺度¹⁶⁾（以下「主観的ソーシャル・キャピタル尺度」とする）を使用する。芳賀らの尺度は3領域33項目で構成され、ひとつの領域に11項目が割り付けられている。各領域は親密な関係にある「仲間」、大学生活における一般的な他者として「クラスメート」、大学生活において大学の制度と学生を結びつける「教員」を想定している。なお、項目内容は「教員」領域における2項目のワーディングが異なるだけで、他はすべて同じである。回答時には「仲間」「クラスメート」「教員」を想定することが求められる。各領域の11項目は信頼、互酬性の規範、ネットワークの下位領域は設定しないが、それぞれの要素を踏まえて作成された。また、項目内容は大学生活を想定するものの、一般的な社会生活においても通用するものである。本研究では主観的ソーシャル・キャピタルの尺度の「仲間」「クラスメート」領域の項目を取り上げて調査を行う。その後、保育所ソーシャル・キャピタル尺度との間に正の相関関係があると予測して分析を行い、保育所ソーシャル・キャピタル尺度の併存的妥当性を確認する。

第3に、Diener et al. の人生満足度尺度¹⁷⁾を用いる。上記の芳賀ら¹⁶⁾は大学生活における主観的ソーシャル・キャピタルの収束的妥当性の検証のために人生満足度に着目した。芳賀ら¹⁶⁾では主観的なソーシャル・キャピタルが高いと生活が充実していることを感じやすいために、結果として人生満足度が高くなると仮説が立てられた。この仮説に基づき調査データを分析した結果、主観的ソーシャル・キャピタルは人生満足度と正の相関関係が認められることを報告している。また、芳賀ら¹⁸⁾も上記の相関関係について、ソーシャル・キャピタルが豊かであれば信頼し支え合う風土が交際圏を拡張して多様なニーズを満たしやすくなるため人生満足度も高くなるとして、マルチレベル相関分析を行っている。結果として「教員」領域以外は「学生」と「大学」の両レベルで正の相関関係が確認された。以上より、本研究においても人生満足度について調査を行い、保育所ソーシャル・キャピタル尺度との相関関係を分析して、保育所ソーシャル・キャピタルの収束的妥当性を検証する。人生満足度と保育所ソーシャル・キャピタル尺度のデータは正の相関関係があると予測する。

最後に、Kessler et al. の抑うつ尺度¹⁹⁾を用いる。これまでにソーシャル・キャピタルは様々な健康指

標との関連性が指摘されているが、抑うつについても関連が報告されている²⁰⁾。芳賀ら²¹⁾と芳賀ら¹⁸⁾とは、大学生を対象として主観的ソーシャル・キャピタルと抑うつについて調査を行っている。芳賀ら²¹⁾では主観的ソーシャル・キャピタルにおける信頼や互酬性が抑うつを説明するとして相関分析を行った。結果として、主観的ソーシャル・キャピタルと抑うつには負の相関関係があることを報告した。また芳賀ら¹⁸⁾は主観的ソーシャル・キャピタルが高い大学生ほど人間関係を肯定的に感じており抑うつが低いとして、マルチレベル相関分析を実施した。その結果、「教員」領域以外は「学生」と「大学」の両レベルで負の相関関係が認められた。本研究でも抑うつ尺度¹⁹⁾を用いて調査を行い、保育所ソーシャル・キャピタルの収束的妥当性を検証する。抑うつと保育所ソーシャル・キャピタル尺度から得られたデータには負の相関関係があると推測する。

1.4 研究目的

本研究の目的は保育所ソーシャル・キャピタル尺度を作成することである。そのため保育所ソーシャル・キャピタル尺度の項目を新たに作成したうえで、職場のソーシャル・キャピタル尺度等も含めて調査を行い、保育所ソーシャル・キャピタル尺度の妥当性について分析する。

2. 方法

2.1 調査対象と時期

本研究のために保育士を対象としたWeb調査を実施した。Web調査はクロス・マーケティング社に委託して行われた。調査時期は2024年3月下旬で、調査対象者はクロス・マーケティング社のパネルから保育所に勤務する150人が選ばれた。そのうち保育士資格を有し、かつ回答内容に著しい偏りが無かった144人を今回の対象者とした。

調査対象者の平均年齢は47歳（標準偏差13.30）で男性が6人、女性が138人であった。現職場での平均勤務年数は8.46年（標準偏差8.35）であり、勤務先として保育園は116人、小規模保育園は13人、事業所内保育園は4人、企業主導型保育園は11人であった。

2.2 調査内容

保育所ソーシャル・キャピタル尺度の項目の作成のために、筆者らによって結合型と橋渡し型ソーシャル・キャピタルの各々に信頼、互酬性の規範、ネットワークの下位領域を想定した項目の草案が作成された。これらの作成時には各項目が保育所の現場と、その周囲にある地域や場面との一般的な関係性に準じるように配慮した。その後、草案は筆者の

依頼により認定こども園（以前は保育園）園長2人によって確認され、内容妥当性が高まるように修正された。結果として結合型、橋渡し型における各下位領域で3項目（1項目は逆転項目）、計18項目が作成された。各項目を表1に示す。Web調査では各項目について自らの状況に当てはまる程度を4段階「1：少しも当てはまらない～4：かなり当てはまる」で評定させた。

職場のソーシャル・キャピタル尺度¹⁵⁾については、その日本語版²²⁾を用いた。職場のソーシャル・キャピタル尺度は8項目で構成される。今回の調査では原典に従い、7項目は現実の程度量を5段階（1：全くあてはまらない～5：非常にあてはまる）で、残りの1項目は頻度を5段階（1：ほとんどない～5：非常にある）で評定させた。なお、職場のソーシャル・キャピタル尺度¹⁵⁾は高い信頼性（ $\alpha=.93$ ）が確認されている。よって分析時には8項目の総点を用いた。

主観的ソーシャル・キャピタル尺度¹⁶⁾の11項目は、それぞれを4段階（1：少しも当てはまらない～4：かなり当てはまる）で評定させた。

人生満足度¹⁷⁾は日本語版²³⁾である5項目を7段階（1：まったく当てはまらない～7：非常によく当てはまる）で評定させた。

抑うつ¹⁹⁾はその日本語版²⁴⁾の6項目を5段階（1：全くない～5：いつも）で評定させた。

2.3 データの整理

保育所ソーシャル・キャピタル尺度で得られた素点は、結合型および橋渡し型の3下位領域ごとで合計して得点化した。その他の尺度で得られた素点は各尺度で合計して得点化した。

3. 結果と考察

調査で得られたデータについて、まずは保育所ソーシャル・キャピタル尺度の基本統計量と下位領域間の相関関係を分析する。その後、関連尺度との相関分析を行う。

3.1 保育所ソーシャル・キャピタル尺度の基本統計量と相関関係について

保育所ソーシャル・キャピタル尺度の各項目の素点から平均値と標準偏差を算出して表1に示した。各項目の平均値に1標準偏差を加除した値は全項目で評定値の範囲である1以上4以下の値となった。したがって各項目に床効果または天井効果は認められないと考える。

次に結合型および橋渡し型ソーシャル・キャピタルにおける各下位領域の3項目のデータを用いて信頼性の一側面である内的一貫性を表す α 係数を算出した（表1参照）。 α 係数を算出する際には下位領域

表1 保育所のソーシャル・キャピタル尺度の各項目と素点平均値および標準偏差

分類	下位領域	項目	素点の 平均値	標準偏差	α 係数
信頼		職場でともに働く職員を頼もしく思っている。	3.06	0.65	.69
		職場の職員には何でも相談できる。	2.60	0.76	
		職場に心を許せる職員はいない。*	2.12	0.79	
結合型	互酬性の規範	職場ではお互いに助け合える関係にある。	3.06	0.71	.52
		職場では力を合わせて仕事をするのが困難である。*	1.99	0.68	
		職場でともに働く職員への支援が、のちに自分にも行われることがある。	2.50	0.70	
ネットワーク		職場では仕事について職員と十分にやり取りしている。	3.18	0.65	.63
		職場の職員のことは、何も知らない。*	2.12	0.70	
		一緒に働く職員のことを身近に感じる機会が多い。	2.80	0.68	
橋渡し型	互酬性の規範	職場のある地域の人々とは、気軽に会話できない。*	2.31	0.74	.44
		職場のある地域の人々については、頼りになると感じている。	2.59	0.70	
		職場は安心して過ごせる地域にある。	3.01	0.65	
ネットワーク		職場のある地域では、助け合いの精神が根付いている。	2.60	0.70	.39
		職場のある地域では、お互いに助け合うことがない。*	2.27	0.71	
		職場のある地域の人々とは、ふだんは交流が無いが、何かあれば支えあえる。	2.68	0.69	
ネットワーク		職場の職員以外で、たまに相談できる人がいる。	2.70	0.87	.39
		職場のある地域には、知り合いが全くいない。*	2.48	0.92	
		研修会などで親しくなった異なる職場の友人がいる。	1.88	0.87	

注) *は逆転項目

ごとに含まれる逆転項目の素点は反転化した(例: 4点であれば1点とする)。すべての α 係数は.39から.69の範囲に含まれた。全般的に低めの値となったが、項目数が3と少ないことに起因すると考えられる。また、特に橋渡し型ソーシャル・キャピタルの下位領域で α 係数が低くなったのは、橋渡し型が広域における状況を想定しており、そのため項目内容も様々な地域や場面に関するものとなって、回答内容にばらつきが出たことも一因と推察する。なお信頼性は妥当性の必要条件とされる²⁵⁾。したがって

妥当性の検証には信頼性が十分に確保されている必要があった。次節では保育所ソーシャル・キャピタル尺度の妥当性について議論を進めるが、4. 結語では今回の研究で得られた α 係数の結果をふまえ、改めて尺度の妥当性について言及する。

表2に結合型および橋渡し型ソーシャル・キャピタルの下位領域間におけるピアソンの積率相関係数を掲載した。はじめに結合型そして橋渡し型ソーシャル・キャピタルごとの下位領域においては、結合型ではいずれも中程度の正の相関関係($r=.55$

表2 保育所ソーシャル・キャピタル尺度の各分類の下位領域間における相関係数

分類	下位領域	結合型			橋渡し型		
		信頼	互酬性の規範	ネットワーク	信頼	互酬性の規範	ネットワーク
結合型	信頼	—					
	互酬性の規範	.60 **	—				
	ネットワーク	.66 **	.55 **	—			
橋渡し型	信頼	.43 **	.55 **	.49 **	—		
	互酬性の規範	.46 **	.49 **	.39 **	.54 **	—	
	ネットワーク	.13	.11	.17 *	.34 **	.25 **	—

* $p < .05$, ** $p < .01$

-.66, $p < .01$)があり、橋渡し型では弱から中程度の正の相関係数 ($r = .25 - .54, p < .01$) が認められた。信頼、互酬性の規範、ネットワークはソーシャル・キャピタルを構成する下位領域であるため、互いに関係があることが見込まれる。また1.2で紹介した宮田¹²⁾のソーシャル・キャピタル分類に対する示唆より、各々は結合型、橋渡し型ごとに相互に影響しあうと推測される。結合型および橋渡し型のそれぞれで、信頼、互酬性の規範、ネットワークに正の相関係数が認められたのは妥当と思われる。

また、結合型および橋渡し型ソーシャル・キャピタルの下位領域間の相関係数に着目すると、信頼と互酬性の規範では中程度の正の相関係数 ($r = .43, p < .01; r = .49, p < .01$) が確認されたが、ネットワークではほとんど相関係数は認められなかった ($r = .17, p < .05$)。信頼および互酬性の規範は認知的ソーシャル・キャピタルとしても分類される⁷⁾。つまり、信頼と互酬性の規範は保育士が認知するソーシャル・キャピタルである。この認知においては、結合型での認知のしやすさと橋渡し型における認知のしやすさが、各保育士内で類似する可能性があるため、以上の相関係数が確認されたと推察する。一方、ネットワークは構造的ソーシャル・キャピタルに分類され、結合型、橋渡し型の2者間では性質、特徴が異質となるために、相関係数はほとんど認められなかったと考える。

表2では上記以外の相関係数も示されている。結合型ソーシャル・キャピタルの互酬性の規

範、ネットワークの各々と、橋渡し型ソーシャル・キャピタルの信頼は中程度の正の相関係数 ($r = .55, p < .01; r = .49, p < .01$) があり、また結合型ソーシャル・キャピタルの信頼、ネットワークのそれぞれと、橋渡し型ソーシャル・キャピタルの互酬性の規範は弱から中程度の正の相関係数 ($r = .46, p < .01; r = .39, p < .01$) が認められた。これらの相関係数を説明する仮説は想定されないが、上記で言及した2種のソーシャル・キャピタルごとの下位領域間における正の相関係数が共変量として影響していると考えられる。一方、結合型ソーシャル・キャピタルの信頼、互酬性の規範のそれぞれと、橋渡し型ソーシャル・キャピタルのネットワークの間に相関係数は確認されなかった ($r = .13, ns; r = .11, ns$)。この一因には、結合型および橋渡し型におけるソーシャル・キャピタルにおけるネットワーク間には相関係数がほとんど認められない ($r = .17, p < .05$) ため、各ソーシャル・キャピタルの下位領域間における正の相関係数が共変量とならないことがあると考える。

3.2 保育所ソーシャル・キャピタル尺度と関連尺度との関係

表3では保育所ソーシャル・キャピタル尺度における結合型、橋渡し型ソーシャル・キャピタルの各下位領域と、職場のソーシャル・キャピタル尺度²²⁾と主観的ソーシャル・キャピタル尺度¹⁶⁾、人生満足度尺度²³⁾、抑うつ尺度²⁴⁾で取得されたデータによるピアソンの積率相関係数を示した。なお、表3では

表3 保育所ソーシャル・キャピタル尺度と関連尺度との相関係数

分類	下位領域	職場の ソーシャル・ キャピタル ($\alpha = .94$)	主観的 ソーシャル・ キャピタル ($\alpha = .92$)	人生満足度 ($\alpha = .94$)	抑うつ ($\alpha = .93$)
結合型	信頼	.64 **	.69 **	.21 **	-.38 **
	互酬性の規範	.72 **	.75 **	.22 **	-.29 **
	ネットワーク	.51 **	.62 **	.16	-.26 **
橋渡し型	信頼	.46 **	.56 **	.15	-.10
	互酬性の規範	.51 **	.53 **	.28 **	-.15
	ネットワーク	.10	.09	.29 **	-.17 *

* $p < .05$, ** $p < .01$ 注) 丸括弧内は各尺度の α 係数を示す。

職場のソーシャル・キャピタル尺度、主観的ソーシャル・キャピタル尺度、人生満足度尺度、抑うつ尺度のそれぞれにおいて、本研究のデータで算出した α 係数も掲載した。これらの α 係数から、いずれの尺度においても十分な信頼性が確認された。

はじめに、職場のソーシャル・キャピタルおよび主観的ソーシャル・キャピタルとの相関関係においては、橋渡し型ソーシャル・キャピタルのネットワークとの相関関係($r = .10, ns; r = .09, ns$)以外は、中程度以上の正の相関関係($r = .46 - .75, p < .01$)が確認された。したがって、今回の研究では橋渡し型のネットワーク以外の下位領域においてはソーシャル・キャピタル尺度としての併存的妥当性が認められたと考えられる。

職場のソーシャル・キャピタル尺度は橋渡し型分類でかつネットワークの要素をもつ項目を有する^{15,22)}。また主観的ソーシャル・キャピタル尺度はネットワークの要素をもつ項目を含むとされる¹⁶⁾。ただし、これら2尺度の項目内容は、自らの職場もしくは学校という限定した場面を想定している。一方で保育所ソーシャル・キャピタル尺度の橋渡し型のネットワーク項目は、自らが勤める保育所に限定せず、周囲の地域や場면을想定して項目内容を構成している。この差異により、職場のソーシャル・キャピタル、および主観的ソーシャル・キャピタルとの相関関係は認められなかったと考える。

橋渡し型ソーシャル・キャピタルは開放的かつ横断的な状況を想定するものである⁴⁾。そのため下位

領域としてのネットワークも、場面を限定しない周囲に開放的な特徴を有する必要があると考える。保育所ソーシャル・キャピタル尺度における橋渡し型のネットワーク項目の併存的妥当性については、引き続き検討を重ねたい。

次に保育所ソーシャル・キャピタルと人生満足度および抑うつとの相関関係について述べる。算出された相関係数から、弱程度であるが相関関係が確認されたのは結合型の信頼と互酬性の規範における相関関係のみであった。よってこれら2種の下位領域には収束的妥当性が認められると考える。

人生満足度との相関関係では、結合型の信頼と互酬性の規範、そして橋渡し型の互酬性の規範とネットワークにおいて弱程度の正の相関関係が確認された($r = .21 - .29, p < .01$)。一方、残りの結合型のネットワークと、橋渡し型の信頼では相関関係が認められなかった($r = .16, ns; r = .15, ns$)。芳賀ら¹⁶⁾および芳賀ら¹⁸⁾は主観的ソーシャル・キャピタルが人生満足度と正の相関関係にあると報告していた。したがって結合型のネットワークおよび橋渡し型の信頼においても正の相関関係が予測されたが、本研究の結果はそうではなかった。なお、芳賀ら¹⁶⁾では主観的ソーシャル・キャピタルの仲間、クラスメート、教員の各領域で相関分析を行い、算出された相関係数は.21, .16, .22(いずれも $p < .01$)であった。これらの相関係数の大きさは、保育所ソーシャル・キャピタルと人生満足度によって算出された値と大きな差異はない。ただし、芳賀ら¹⁶⁾は本研究よりもサン

プルサイズが大きいため、検定力が高く、統計的有意性は認められたと考える。本研究においても今後はサンプルサイズに留意して再調査を行い、相関関係が認められなかった2種の下位領域も含めて継続的な分析が求められる。

また、保育所ソーシャル・キャピタルと抑うつとの相関関係については、結合型の各下位領域において弱程度の負の相関関係 ($r=-.38$ - $-.26, p<.01$) が認められた。一方、橋渡し型の下位領域では、ネットワークでは統計的有意 ($r=-.17, p<.05$) であったものの、信頼、互酬性の規範では統計的有意ではなく (信頼: $r=-.10, ns$; 互酬性の規範: $r=-.15, ns$)、ほとんど相関関係が認められないか、相関関係は確認できなかった。

保育所ソーシャル・キャピタル尺度における橋渡し型の項目の多くは、保育所の外の地域や場面との関係を想定している。今回の研究結果は、このような地域および場面との関係性が保育士の抑うつには影響しない傾向を示唆するものであった。ただし、1. 3で述べたように、芳賀ら²¹⁾と芳賀ら¹⁸⁾では抑うつと主観的ソーシャル・キャピタルに負の相関関係が確認されていた。その他の先行研究でもソーシャル・キャピタルと抑うつとの関係性は報告されている²⁰⁾。相関関係が確認できなかった今回の結果の原因をより詳細に分析するためにも、引き続き研

究を行う必要があると考える。

4. 結語

本研究では保育所ソーシャル・キャピタル尺度を作成することを目的とした。そのため保育所ソーシャル・キャピタル尺度の項目を作成したうえで、その妥当性について検討した。

保育所ソーシャル・キャピタル尺度の妥当性を検討するために着目した4種の尺度との相関関係について分析した。結果として、結合型および橋渡し型ソーシャル・キャピタルにおける6種の下位領域において、併存的および収束的妥当性の両者が認められたのは、結合型分類の下位領域である信頼と互酬性の規範のみであった。それ以外においては、3. 結果と考察でも述べたように追加の検討が必要と考えられた。

また、保育所ソーシャル・キャピタル尺度の下位領域における α 係数から、各下位領域の内的一貫性、すなわち信頼性についても十分ではないことが示された。信頼性は妥当性の必要条件²⁵⁾とされるため、以上で妥当性を確認した結合型の信頼と互酬性の項目内容においても、さらなる検討が必要である。保育所ソーシャル・キャピタル尺度の信頼性と妥当性を向上させるために、各下位領域を構成する項目の加筆および修正が求められる。

倫理的配慮

本研究は川崎医療福祉大学倫理委員会の承認 (承認番号: 23-047) を受けて行われた。

付 記

本研究の一部は日本心理学会第88回大会で発表された。

謝 辞

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(C)課題番号 JP21K02372「保育所の事業継続マネジメントによるソーシャル・キャピタル醸成手法の開発」) の助成を受けた。

注

†1) Putnam (1993) の該当部分では「norms」とあるが、その前段落では「norms of reciprocity」と具体的に記述されることを考慮して「互酬性の規範」と翻訳した。

文 献

- 1) 藤稿亜矢子: 既往研究レビューによるソーシャル・キャピタル概念の定義に関する考察. 環境情報科学, 38(1), 56-65, 2009.
- 2) 空閑睦子: ソーシャル・キャピタルに関する先行研究の整理—今日までにおける定義の概要と文系サーベイから見た日本の研究の動向—. *CUC policy studies review*, 27, 39-49, 2010.
- 3) Putnam RD: *Making democracy work: Civic traditions in modern Italy*. Princeton University Press, New Jersey, 1993.
- 4) Narayan D: Bonds and bridges: social capital and poverty. The World Bank, Washington DC, 1999.
- 5) Granovetter MS: The strength of weak ties. *American Journal of Sociology*, 78(6), 1360-1380, 1973.

- 6) Krishna A and Uphoff N : *Mapping and measuring social capital: A conceptual and empirical study of collective action for conserving and developing watersheds in Rajasthan, India*. Social Capital Initiative, Working paper13, The World Bank, Washington DC, 1999.
- 7) 相田潤, 近藤克則: 健康の社会的決定要因 (10) 「ソーシャル・キャピタル」. 日本公衆衛生雑誌, 58(2), 129-132, 2011.
- 8) 木村美也子: ソーシャル・キャピタル—公衆衛生学分野への導入と欧米における議論より—. 保健医療科学, 57(3), 252-265, 2008.
- 9) 国際協力事業団: ソーシャル・キャピタルと国際協力—持続する成果を目指して—【総論編】. 国際協力事業団国際協力総合研修所, 東京, 2002.
- 10) 藤内修二: 地域保健対策におけるソーシャル・キャピタルの活用のあり方に関する研究—平成25年度～26年度総合研究報告書—. 日本公衆衛生協会, 東京, 2015.
- 11) 川島典子: 結合型ソーシャル・キャピタルと橋渡し型ソーシャル・キャピタルに着目した子育て支援に関する研究. 同志社政策科学院生論集, 7, 13-21, 2018.
- 12) 宮田加久子: きずなをつなぐメディア—ネット時代の社会関係資本—. NTT 出版株式会社, 東京, 2005.
- 13) 稲葉陽二編著: ソーシャル・キャピタルからみた人間関係—社会関係資本の光と影—. 日本評論社, 東京, 2021.
- 14) 厚生労働省: 保育所保育指針解説平成30年2月.
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/eb316dce-fa78-48b4-90cc-da85228387c2/f4758db1/20231013-policies-hoiku-shishin-h30-bunkatsu-1_24.pdf, 2018. (2024.10.28確認)
- 15) Kouvonen A, Kivimaki M, Vahtera J, Oksanen T, Elovainio M, Cox T, Virtanen M, Pentti J, Cox SJ and Wilkinson RG: Psychometric evaluation of a short measure of social capital at work. *BMC Public Health*, 6(251), 2006, <https://doi.org/10.1186/1471-2458-6-251>.
- 16) 芳賀道匡, 高野慶輔, 羽生和紀, 坂本真士: 大学生活における主観的ソーシャル・キャピタル尺度の開発, 教育心理学研究, 65, 77-90, 2017.
- 17) Diener ED, Emmons RA, Larsen RJ and Griffin S : The satisfaction with life scale. *Journal of Personality Assessment*, 49(1), 71-75, 1985.
- 18) 芳賀道匡, 高野慶輔, 羽生和紀, 西河正行, 坂本真士: 大学生活におけるソーシャル・キャピタルと主観的ウェルビーイングの関連. 心理学研究, 87(3), 273-283, 2016.
- 19) Kessler RC, Andrews G, Colpe LJ, Hiripi E, Mroczek DK, Normand SLT, Walters EE and Zaslavsky AM : Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological Medicine*, 32, 959-976, 2002.
- 20) 儘田徹: 日本におけるソーシャル・キャピタルと健康の関連に関する研究の現状と今後の展望. 愛知県立大学看護学部紀要, 16, 1-7, 2010.
- 21) 芳賀道匡, 高野慶輔, 坂本真士: 大学生活における主観的ソーシャル・キャピタルが, 抑うつや主観的ウェルビーイングに与える影響—ネットワーク・サイズとの比較から—. ストレス科学研究, 30, 102-110, 2015.
- 22) 高尾総司: 職場のソーシャル・キャピタルと健康経営—外向きで緩やかなネットワークの醸成が好影響をもたらす可能性—. *Business labor trend* ビジネス・レーバー・トレンド2016年12月号, 38-40, 2016.
- 23) 大石繁宏: 幸せを科学する—心理学からわかったこと—. 新曜社, 東京, 2009.
- 24) 川上憲人, 近藤恭子, 柳田公佑, 古川壽亮: 成人期における自殺予防対策のあり方に関する精神保健的研究. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」分担研究報告書, 147-169, 2005.
- 25) 平井洋子: 測定の妥当性からみた尺度構成—得点の解釈を保証できますか—. 吉田寿夫編, 心理学研究法の新しいかたち, 誠信書房, 東京, 21-49, 2006.

(2024年11月7日受理)

Development of a Social Capital Scale in Nursery Schools

Hiromichi MORIMOTO, Keita IRIE and Masato IKEDA

(Accepted Nov. 7, 2024)

Key words : nursery school, social capital, scale

Abstract

This study aimed to develop a scale for measuring social capital in nursery schools, categorizing it into bonding and bridging types, each comprising trust, norms of reciprocity, and networks. New scale items were created and tested through a web-based survey involving 144 participants. Analysis revealed that the scale lacked sufficient reliability and validity in its subdomains. Further research, including the addition and modification of scale items, is required to improve the scale.

Correspondence to : Hiromichi MORIMOTO

Department of Medical Welfare for Children

Faculty of Health and Welfare

Kawasaki University of Medical Welfare

288 Matsushima, Kurashiki, 701-0193, Japan

E-mail : morimoto@jc.kawasaki-m.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.34, No.2, 2025 293–302)